

漢字はかなよりもやさしい

「かなは漢字よりもやさしい。」……千年来のこの考え方は誤って
 きました。しかし、そう考え誤るのは無理もないと思います。漢字は、
 字数が多いから、覚えるのに大変である。

字画が複雑であるから、覚えにくい。

という、むずかしく思われそうな要素をもっていて、そのため、平安
 朝以来、かなは女手(やさしい)、漢字は男手(むずかしい)と言われて、
 今に及んでいるのです。



平安朝以来かなはやさしい、漢字はむずかしいといわれて今日に
 及んでいる

ところが、漢字は“文字”であると同時に“語”でもあるのです。つまり、
 「山」「川」「花」「月」という漢字は、英語の「mountain, river, flower, moon」
 という“語”に当たっています。

英語の場合、これらの“語”を、千、二千と学習し、記憶しなければ、
 本を読んでこれを理解することができません。

とすれば、漢字の千、二千を覚えることは、とりわけてむずかしい、と
 考えるのが誤っていることになります。

漢字が“字”と呼ばれても、それは“かな”や“ローマ字”と同等に考え
 るべきものではなく、“字”の集合体である“語”であると考えますと、
 の“字画が複雑だ”という非難も当たらなくなります。

たとえば、「整」という漢字などは、一見、たいそう複雑な字形をして
 いますが、これは、英語の「to put (things) in order」に当たっています。
 「束」は things の意味、「女」は put の意味、「正」は order の意味に当た
 っています。一つ一つ照合してみますと、漢字のほうがかえって簡単
 であることがわかります。

「整」は、英語の三つの単語に当たるものを一つにまとめたので、こ
 れを一字として見る時は、知らない者にだけ複雑に見えるのであって、

事實は、みごとに圧縮された文字だ、ということがわかります。

とはいえ、“論より証拠”です。いかに、私が、「漢字はむずかしくない。」という理論をみごとに展開してみたところで、幼児がこれを覚えてくれなかったら、何にもなりません。

まだ文字というものを全く知らない幼児に、漢字とかなを、同じ条件で提示してみます。すると、結果は、例外なく、幼児はかなよりも漢字のほうを先に覚えます。



幼児はかなより漢字のほうをはるかにはやく覚える

その漢字は、ただし、幼児に理解できる言葉を表わした漢字に限りま

した。たとえば、「範疇」などという漢字でも、ただ「はんちゅう」と読ませるようにするだけなら、できないことはありません。私は、自分の子供でこれを実験してみて、発音するだけならできることを確かめておりますが、こんな無意味な学習は一般にすべきことではありませんので、実験には幼児に理解できる言葉を表わした漢字と限ったわけです。

この実験は、すでに数千人の幼児に対して行なっていますが、その結果は、明瞭に、「幼児は、かなよりも漢字のほうが覚えやすい。」ということを実証しています。

それも、三歳くらいの幼児ですと、その差が比較にならぬほど大きくなります。漢字を覚えるのに費やした時間の、二十倍、三十倍の時間を費やしても、かなは覚えられません。両者にはそれだけの違いがあるのです。

それはなぜでしょうか。

それを考える前に、“記憶”ということとはどのようにしてでき上がるものか、ということを考えてみたいと思います。